

快眠特化宿泊プラン好調

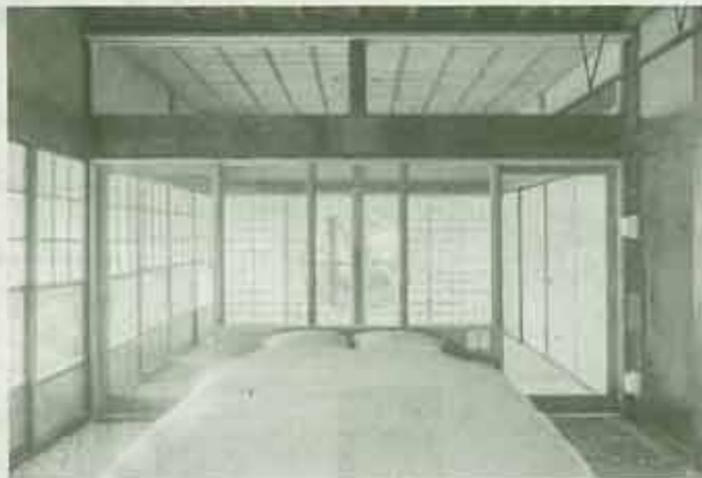
「スリープツーリズム」広がる

良質な睡眠を取ることを目的とした「スリープツーリズム」がじわり広がり始めている。先端技術で睡眠の質を高める「スリープテック」の市場拡大を受け、首都圏のホテルで最新器具などを体感できる宿泊プランが好調だ。周辺観光やグルメを主目的としない新たな旅の形が注目されつつある。

東京都心から車で約1時間、約900本のヤシ並木と相模湾越しの富士山を望むリビエラ逗子マリーナ(神奈川県逗子市)。マリーナ内のホテル「MALIBU HOTEL(マリブホテル)」が眠りの質を追求した宿



香りやハーブティーなどでも良質な眠りをサポートする(神奈川県逗子市のマリブホテル)



逗子・マリブホテル

客に最適な寝具用意

都立川市)での研修を受けたスタッフが宿泊客一人ひとりカウンスリングしながら最適なマットレス、ボディーピロー、フットピローを選んで客室に用意する。

「手間も時間もかかるが、お客様が本当によく眠れたと喜んでくれる」(河野靖史取締役総支配人)と評判は上々。入眠前のハーブティーやチョコレート、ヨットでの船上モーニングやヨガ、サウナといった体験メニューも用意し、睡眠リズムを整える。

プランは1日1組限定で、料金は1泊1室2人利用で12万3400円から。2月に宿泊した50代の経営者の男性は「朝まで一度も目が覚めることなく眠れたのは久しぶりだ」といい、3月にも再び宿泊する予定だ。

男性は日常でも睡眠アプリやスマートウォッチ民泊施設の紡ノ座(千葉県長柄町)では昭和西川のマットレスを導入した。

#ハッシュタグ hashtag

#スリープツーリズム
良質な睡眠をとること

を目的にした旅のスタイル。新型コロナウイルス禍を機に健康意識の向上や疲労・睡眠不足から欧米のホテルなどで様々なプランが誕生した。調査会社のグローバルインフォメーションによると世界の市場規模は2030年には約1490億ドル(23兆円)に及ぶと試算している。

で睡眠時間を計測していたが、数字を確認するだけだったという。「テクノロジーだけでなく環境や空間演出まで含めて睡眠が設計されている点に価値を感じた」と話す。

医療機関と連携してより踏み込んだプランを提供しているのが藤田観光のホテル椿山荘東京(東京・文京)が提供する「Sleep Wellステイ」だ。宿泊する4日前から筑波大学発スタート

アップ、スイミング(同・渋谷)が手掛ける脳波測定装置を使用し、宿泊日を含めた計5日間の睡眠状況を可視化する。

チェックイン後、ホテルでは庭を散策したり、プールやジム、温泉で汗を流したりして過ごす。翌日、ホテル内の医院でデータをもとに生活習慣や睡眠環境の改善を助言する。1泊1室2人利用で14万700円からで、宿泊税や医師の診察料が別途かかるという。

スリープツーリズムは民泊などにも広がっている。寝具メーカーの昭和西川(同・中央)は民泊

運営企業と提携し、東京都や千葉県の民泊・宿泊施設4カ所に、主力ブランドのMuAtsu(ムアツ)マットレスなどの導入を進めている。

博報堂の100年生活者研究所の大高香世所長は「旅の目的が観光から体験にシフトしているなか、より長くよりよく生きることへの関心の高まりが表れている」と指摘する。

非日常空間からワンランク上の日常を体験するシヨールームへ、ホテルが提供する価値も変化していきそうだ。(松原礼奈)